

CONTENTS

- P1 警視庁機動隊 新隊員合同訓練警備部長査閲
第51回定時総会及び創立50周年記念激励会開催のお知らせ
富士興業(株)様、協材興業(株)様よりご寄付賜る
- P2 東京マラソン2024/名古屋ウィメンズマラソン2024
- P3 Member's Lounge 「励ます会50年を振り返って」小山 巖氏

発行所 一般社団法人
機動隊員等を励ます会
〒103-0025 東京都中央区
日本橋茅場町 3-2-10 鉄鋼会館
発行人 中村 真一
TEL 03(5614)0710
FAX 03(5614)0719
http://www.hagemashi.com
jimukyoku@hagemashi.com

令和6年

5月号

はげまし

For the Riot Policemen & Members

— No.574 —

警視庁機動隊 新隊員合同訓練 警備部長査閲



規制隊形・連鎖隊形の作り方



遊撃部隊活動要領



催涙ガス筒発射器操作要領

← 今月の賛助広告会員 →

- 共英製鋼(株)
- 太陽サカコー(株)
- 宮崎精鋼(株)
- 岡部(株)
- (株)カノークス
- (株)廣澤精機製作所
- 藤田金属(株)
- (株)エイヴィ

国際都市、東京を守る新隊員が訓練の成果を披露

今年も3月に約370名の新隊員が、警視庁機動隊に配属された。去る3月26日には江東区夢の島総合警備訓練場にて、新隊員による合同警備訓練が実施された。新隊員らは警視庁警備部の幹部を前に、基礎的な警備技術である連鎖隊形、暴徒の鉄パイプ攻撃に対処する制圧・検査訓練、暴徒化したデモ隊への対応等の訓練に取り組んだ。

仲間との絆を大切に強さと優しさを兼ね備えた部隊へ

雨の中行われたこの日の合同訓練。訓練を査閲した聖成竜太警備部長は終了後に、「短い期間でここまで練度に仕上げた努力に敬意を表すとともに、機動隊の存在意義を改めて強く感じた。この機会に2点、私からお願したい。

1点目は、機動隊員としての誇りと使命感を持ち続けてほしいということ。これから皆の勤務する警視庁機動隊は昭和23年5月の創設以来、我が国の歴史とともに歩んできた。機動隊は首都警察のみならず、日本の全国の治安を担うが、強靱でなければ治安を守れない。妥協することなく、使命感を持ち、日々の鍛錬に励んでいただきたい。

2点目は、仲間との絆を大切にしてほしいということ。温かさややさしさは強靱な部隊の基礎である。皆は着隊以来、仲間たちと励ましあいながら厳しい訓練を乗り越え、今日この査閲を迎えたと思う。皆が今感じている

第51回定時総会及び 創立50周年記念激励会開催の お知らせ

6月5日(水) 明治記念館(東京都港区)にて「第51回定時総会及び創立50周年記念激励会」を開催します。総会後に警察幹部及び機動隊員の皆さまとの交流激励会を行います。会員の皆さまにはぜひご参加ください。

【第51回定時総会】

2024年6月5日(水)午後5時30分～6時
明治記念館2階「鳳凰の間」

●議題

- 2023年度事業報告及び収支決算承認の件
 - 2024年度事業計画及び収支予算承認の件
 - 理事及び監事選任の件
 - 法人会員会費の改定の件
- 感謝状(永年功労賞)贈呈式

【創立50周年記念 激励会】

同日 午後6時30分～8時 同2階「蓬莱の間」

*会員の皆さまには、5月上旬に「激励会開催のご案内」、5月下旬(理事会後)に「総会開催のご案内」をお送りします。出欠は同封の返信用葉書にて期日までにお知らせください。

達成感、連帯感こそが、あらゆる危機や難局を乗り越えるための原動力にはかならない。ぜひこの絆を大切にし、お互いに声をかけあい、励ましあうことができるような信頼関係を築き、強さとやさしさを兼ね備えた部隊をつくり上げ、全国機動隊の模範になしてほしい。

我々の持ち場は派手な陽の当たる現場ばかりではない。自分たちの使命を忘れることなく、任務を確実に果たしていただきたい」と訓示した。

首都東京を守るための最後の砦の一員として、新たに加わった新隊員たち。彼らの成長と今後の活躍を祈念する。

富士興業株式会社様、
協材興業株式会社様よりご寄付賜る
富士興業株式会社様より創業60周年を機に社会貢献の一環として60万円のご寄付を頂戴いたしました。
協材興業株式会社様より当会創立50周年を機に社会貢献の一環として50万円のご寄付を頂戴いたしました。
今後、機動隊支援のための資金として活用させていただきます。ありがとうございます。
(励ます会事務局)

東京マラソン2024

警視庁のランニングポリスが活躍

去る3月3日(日)、東京マラソンが行われた。当日は天候に恵まれ、国内、海外合わせて3万8000名のランナーが参加した。同大会はパリオリンピック男子日本代表の最終選考レースも兼ねており、注目が高まった。

コースは、東京都庁をスタートとし、靖国通りや中央通り、清澄通りなどを通過、東京駅前がゴール。

警視庁は沿道の警備に

あたったほか、ランナーと一緒にマラソンコースを走りながら、不審物や不審者がいないか警戒するランニングポリスも活躍した。また、コースとなる一般道では大規模な交通規制を実施。コースにつながる首都高の出入り口も閉鎖し、対応した。

なお、今年の東京マラソンは、男性ランナーが足を踏み違えて転倒、意識不明のまま救急搬送され同日中に死亡する事故が起きた。東京マラソンでのランナーの死亡は初めてのこと。長距離を走るマラソンでは突発的な事故も起きやすい。東京マラソンでは過去にもマラソン中にランナーが心肺停止に陥り、警察官が救命したケースもあるという。

状況に臨機応変に対応しながら警備を行う警察の皆さんに感謝するとともに、大会運営における安全対策の必要性が改めて認識されることとなった。



沿道の警備



新宿のコース上を走るランニングポリス



都庁前の警備



ゴールゲート手前のランニングポリス

名古屋ウィメンズマラソン2024



警備犬による不審物等の検察



沿道を走るランニングポリス



愛知県警が各種テロ警戒を実施

愛知県警察(鎌田徹郎本部長)は、3月10日(日)、新型コロナウイルスの5類移行後、初の開催となった名古屋ウィメンズマラソン2024において、テロ等違法事案の未然防止のため、各種警戒警備を実施した。

女子マラソンとして世界最大規模を誇る同大会は、バンテリンドームナゴヤをスタートし、同時に開催された名古屋シティマラソン等を含め2万5060人のランナーが参加したほか、沿道には約26万人(主催者発表)の観衆が詰めかけた。

コースに通じる名古屋市内の主要交差点における車両突入阻止対策をはじめ、ドローン対策、警備犬による不審物等の検察、指揮官車に設置した電光掲示板による警備広報、航空隊による道路状況及び雑踏状況の確認、各種資機材等を活用した警戒警備を実施した。また、参加者らに安全・安心を確保するため、選抜された女性警察官機動隊員、機動隊員等により編成された「ランニングポリス」がコース上で警戒に当たった。

← 今月の賛助広告会員 →

- 日本製鉄(株)
- 日鉄物流(株)
- 平和農産工業(株)
- 日鉄建材(株)
- 芝本産業(株)
- 日鉄ドラム(株)

Member's Lounge

機動隊員等を励ます会 3月の朝食講演会

今年3月、設立50年を迎えた当会。50年の節目の講演として、第4代理事長を務めた小山相談役にご登壇いただき、当会発足の背景や、次の50年に向けての課題についてご講演いただいた。



<3月21日のゲスト>
こやま いわお
小山 巖氏
機動隊員等を励ます会
相談役

プロフィール

1940年 神奈川県生まれ

経歴

- 1963年 東京大学 法学部法学科卒業
- 富士製鐵(株)入社
- 合併による社名変更により新日本製鐵(株)
- 1970年 同 人事部人事第一室長
- 1982年 同 新規事業部門新素材事業本部企画管理部長
- 1987年 同 総務部長
- 1991年 同 取締役(総務部長委嘱)
- 1993年 同 取締役(経営企画部長委嘱)
- 1995年 同 代表取締役副社長
- 2000年 同 代表取締役副社長(エンジニアリング事業本部長委嘱)
- 同 常任顧問
- 2003年 日鐵建材工業(株)代表取締役社長
- 2004年 合併による社名変更により
- 2006年 日鐵住金建材(株)代表取締役社長
- 同 取締役相談役
- 2009年 同 退職
- 2011年 当会役員
- 2003年 副理事長
- 2004年 理事長(第4代)
- 2010年 理事長を辞任し、理事・相談役就任
- 2014年 理事退任(相談役として現在に至る)

励ます会50年を振り返って

1. 機動隊の歴史と現状

当会は1974年の3月22日に任意団体として設立されました。今日がちょうど3月21日ですから、きっちり満50年の節目の日ということになります。

この50年を総括すると、七十数年にわたる国の治安を守り通していただいた機動隊員の皆様方に深甚なる敬意を表するということが、好不況に関わらず、会の運営にご協力いただきました会員の皆様方に心から感謝申し上げたいということに尽きます。結果として、日本が治安大国になっていることに誇りを強く感じています。

まず、私どもが応援している機動隊について改めてご紹介いたします。機動隊の起源は戦前にさかのぼり、昭和8(1933)年に当時の警視庁にできた特別警備隊だと言われています。昭和7(1932)年に五・一五事件があり、非常に政情が不安定だったため、翌年に特別警備隊が発足したということになっています。その後、終戦とともに特別警備隊はG

HQ(連合国軍総司令部)から解体を命じられ、改めて1948年に警視庁予備隊がスタートし、今の機動隊となります。

機動隊はその後、各都道府県に配置されていき、1962年に全都道府県に配置され今日に至っています。ちなみに、1950年に名前の似た警察予備隊ができていますが、これは今の陸上自衛隊発足の名称です。

現在、都道府県に配置されている機動隊が約8000名、管区機動隊が約4000名で、1万2000名体制です。これ以外で、普段は警察署に勤務しているけれど何かあった時に機動隊を補完する役割として、第二機動隊も組織として存在しています。そして内部の専門部隊として機能別の訓練を受け、知識を備えている部隊があります。特に最近では核兵器、生物兵器、化学兵器等々の問題を取り扱うNBCテロ対応専門部隊等があります。また、女性警

察官特別機動隊も活躍しています(註1)。

都道府県の機動隊のメインは警視庁であり、機動隊約8000名のうち約3000名が警視庁に配置されています。警視庁の部隊は第一から第九、特科車両隊の10隊編成となっています。

類似する他の部隊

機動隊に類似した部隊が存在し、例えば、特殊部隊のSATは精鋭だけを集めた特殊襲撃部隊で、8都道府県で約300名の体制になっています。また、成田国際空港警備隊があるほか、元沖縄県警察の機動隊からなる国境離島警備隊は、尖閣問題等の対応に当たっています(註2)。

2. 当会発足のきっかけとなったあさま山荘事件

当会発足の直接のきっかけは1972年2月のあさま山荘事件です。連合赤軍の極左勢力5名が、山岳アジトを警察に追われて逃げていく途中であさま山荘に押し入り、管理人の奥様を人質にして立

てこもりました。世間を大きく騒がせた事件で、解決に至るまでテレビで生中継され最後に突撃したときには視聴率が89.7%と、9割近くの国民がテレビに釘付けになっていました。

この事件で残念ながら隊長をはじめとする2名の機動隊員が犠牲になり、26名の機動隊員も重軽傷を負う悲惨な事件でした。当時すでに極左勢力が衰退の流れにあったものですが、その焦りの中で犯人グループは火炎瓶や銃で武装し、「内ゲバ」や総括を繰り返して仲間を12人も殺害してしまいました。そのような犯人グループが立てこもったということで、人質を無事救出することに警察は大変腐心をしたわけです。

もう一つ、警察が苦しみられたのは、銃器を使用しないで武装している相手を逮捕しなければならぬとの要請があったことです。これはなぜかという点、犯人が銃殺されることで偶像化されたり殉教者扱いされたりすることを避ける目的もあります。もう一つは、この2年前に瀬戸内海で起きたシージャック事件が影響していました。この事件には思想的な背景はなく、不良少年が車を盗んだことが発端です。彼らは警察官を刺して重傷を負わせて逃走し、店を襲って銃を奪い「ぶりんす号」という船に乗り込んで、シージャックを起こしました。銃弾を百発以上も発射し、やむなく2日目に警察が銃撃して犯人を射殺しました。これは親も含め世間もやむを得なかったということでしたが、銃撃した警察官が特定されてしまし、特別公務員暴行陵虐罪で告発されたり国会で問題にされたりして、結果的にその警察官は退職せ

3. 当会発足の時代背景 60年安保闘争

あさま山荘事件の直前にも、日大紛争(1968年9月、殉職者1名)、成田闘争(1971年9月、殉職者3名)、渋谷暴動事件(1971年11月、殉職者1名)と、類似の案件がありました。こうした事件の背景には、60年安保と70年安保という2回の安保闘争事件があり、60年安保は警察も大変苦労しました。安保闘争は警察が大変苦労したわけですが、60年安保では1960年6月15日に大デモ行進がありました。主催者の発表で33万人、警察発表でも13万人が参加した大変なデモであり、この時にデモをしていた東大生の樺(かんば)美智子さんが圧死、警察も3000名以上が負傷する大きな事案でした。

実は私自身も思うところがあったのでこのデモに参加していました。その時は本当に革命が起ころんじやないかという、異様な胸騒ぎがしたことをよく覚えています。この時は朝日新聞をはじめ主要な新聞社7社が、暴力廃止、議

【註1】 機動隊の現状

- 1 機動隊 8000名**
 - 機動隊は、集団警備力によって有事即応体制を保持する常設部隊
- 2 管区機動隊 約4000名**
他に第二機動隊
 - 管区機動隊は平常時には、地域、刑事、交通等の勤務につきながら、機動隊に準じた形で警備訓練を行い、大規模警備においては府県を超えて広域運用される部隊
 - 第二機動隊は、警察勤務員から指定され、機動隊を補完して警備実施にあたる部隊
- 専門部隊(機能別部隊)**
 - 爆発物処理班(約1000名)
 - 銃器対策部隊(約2100名)
 - NBCテロ対応専門部隊(約200名)(Nuclear/核兵器、Biological/生物兵器、Chemical/化学兵器)
 - レスキュー部隊
 - 水難救助部隊
 - レンジャー部隊
- 女性警察官特別機動隊**

【註2】 機動隊に類似する他の部隊

- 1) 特殊部隊SAT(Special Assault Team)
8都道府県に設置され約300名体制
- 2) 成田国際空港警備隊(千葉県警察)
- 3) 東京国際空港テロ対処部隊(警視庁)
- 4) 国境離島警備隊(沖縄県警察)
- 5) 原発特別警備部隊
- 6) その他 皇宮警察本部特別警備隊

会主義を守れという共同宣言を出すほどの事態でした。さらにその翌日には地方紙を含めた48紙が追隨して、ほぼ全国の新聞社が共同宣言を出しました。そのくらい国家の命運にかかわる危機的な状況だったのです。

なぜここまででの状況になったか

(P47-48)

→ 今月の賛助広告会員 →

- 不動鋼板工業(株)
- 東海レベラー鋼業(株)
- 大阪製鐵(株)
- 日鉄エンジニアリング(株)
- 日鉄物産(株)
- 大東港運(株)

「らからつづく」

という、当時は世界中で共産化の流れが起こっていました。中華人民共和国の誕生から始まり、1950年の朝鮮戦争、59年のキューバ革命、それから安保闘争が起きた60年にはベトナム戦争と、こうした共産化の流れは当時のソ連が後ろから糸を引いており、表向きはそれぞれの国で蜂起させ、それをソ連が支援するという形で関与していました。日本も、まさにソ連がそのようなことを狙っていたわけです。

話はさらにさかのぼりますが、サンフランシスコ講和条約を結ぶ際、交渉の過程の中で、ソ連は日本を東西に分けてソ連とアメリカで分割管理するというドイツ方式を提案していました。アメリカに拒否されましたが、このこともあり、ソ連はサンフランシスコ講和条約には署名していません。日ソ共同宣言という形で国交は回復しましたが、今もロシアと講和条約あるいは平和条約が結ばれていません。

そんなこともあり、当時は共産化の流れが大きな心配事でした。60年安保の大デモ行進の際には、政府が自衛隊の治安出動を検討しました。自衛隊法では警察力をもってしても鎮圧できない事態が起きた場合には、内閣総理大臣は自衛隊に出動を命ずることができることになっています。出動が真剣に検討されたわけですが、最後は機動隊員の力を信じようというところで、機動隊で鎮圧をはかりました。

もう一つ私がデモに参加してこれは許せないと思ったのが、左翼系の学生・デモ隊がみんな機動隊に向かって唾を「ベッベツ」と吐

き掛けていたことでした。十数万人のデモですから、機動隊員と体がぶつかるくらいに近い距離でデモ行進が行われていました。そこに唾を吐き掛けるのです。

この時の大学進学率は8%であり、一般論で言えば、大学生というのはそれぞれの地区のエリートです。それと同じくらい力を持った高校生たちが進学せずに就職し、警察官になり、選ばれた人が機動隊員になっていたわけですから。そういう機動隊に対して唾をかける、これは本当に、はらわたが煮えくり返るくらい機動隊の皆さんは辛かったと思います。そこを耐えて、事態の収拾に当たっていたわけですが、私のちに、少しでも機動隊の皆さんを応援したいと当会の理事長を引き受けたのは、この時の体験が原点にあつたからです。

70年安保闘争
その後、64年の東京オリンピック、いざなぎ景気などを経て70年安保闘争の時代になると、もう革命前夜のような雰囲気はなかったのですが、そのぶん過激化していった。これが60年安保との違いです。日大紛争や東大の安田講堂事件など、鉄パイプや火炎瓶で武装し、その一方で「大学の自治・学問の自由を守れ」と抵抗したため、学生に心情的に味方するような風潮があり、警察を非常に悩ませました。

我々の励ます会の激励会で歌う「この世を花にするために」は、ちょうどこの時代にできた歌です。その一節に、「何をこのんでそしりをうける／損はやめると云われても」という歌詞が出てくるのは、それほど機動隊の皆さんが苦勞されたということだったのです。そし

て、70年安保の2年後、あさま山荘事件が発生し、いよいよ当会設立に向けて動き始めます。

4. 当会と警察との信頼関係

あさま山荘事件の後、当時の新日鉄の大内俊司さんを中心にして、怪我をされた機動隊員のお見舞い、励ましに出かけました。その時に当時の横野警視總監が大変な喜びの意を表されました。そして、「はつきりした形でなくとも、精神的な支援団体が生まれてくれれば望外の幸せである」といったことを述べられました。

それならばなんとか動いてみようというところで、あさま山荘事件から1年後の1973年3月に、この会のコアメンバーとなる9名の発起人会がスタートしました。そこからさらに1年後にこの会が正式に発足したわけです。この時は任意団体で会員は385名でスタートしています。その後は順次各地方の支部が誕生し、1976年に法人化し、「機動隊員等を励ます会」という名称になりました。

横野警視總監は、当会が発足した時には大変お喜びで、「若い隊員にとっては本当に自信と勇気を与えてくれる心強い存在である」と述べられ、当会に期待を寄せられました(註3)。その後、当会は警察協力章(*)、警視總監賞、感謝状をいただいています。ありがたいことに私も頂戴しましたけれど、これはまさに会員の皆さんを代表して理事長がいただいているということ(写真参照)。

なお、警察との関係で触れおきたいのは、平成8年に通達された公務員の網紀厳正です。この時は非常に大きな問題があつて、「公務員は事業者との接触はもろろん

のこと、公益法人などからの利益供与の受領も一切禁止」となり、警察の中でも当会との付き合いについて、議論があつたとうかがっています。

ただ、当会に關してだけは利害関係やましいことは一切ないというところで、以来ずっと支援・協力を続けさせていただいているのは、警察の方のご理解、ご尽力のお陰でもあり大変感謝をしています。そしてまた我々自身も、この機動隊への激励会や観閲式等々の活動を通して、機動隊員の皆さん方の使命感、情熱、規律正しさといったものに触れ、非常に学びを受けている部分もあるわけです。このような機会に積極的に参加し、活動していただけると、自分自身のためにもなると思っています。

*警察協力章：警察における民間人への最高位の表彰

5. 次の50年に向けて

最後に、この先50年に向けて、課題とどう向き合っていくべきかについてですが、まず機動隊が直面している環境は大きく変わります。

「機動隊員は、メーデー騒擾事件、第一・第二安保闘争など国家の命運をかけた警備において、火災びん、銃器、爆発物を使用する凶徒に対し断固対処してきましたが、警備現場における心ない人々の悪口雑言には言いようのない深いさびさに襲われるのであります。こうした時、一般の方々から「ご苦労さん」の一言を頂いた時は勇気百倍使命達成に向けて前進できるのではありません。本会の設立は、若い隊員に絶大な自信と勇気を与えてくれるもので、皆様の温かいご支援を心の柱として精進努力してまいります。」

つあります。最近では直接目に触れるような大規模で動的な警備案件こそ減ってきていますが、無差別殺人や特殊詐欺、闇バイトによる強盗事件、サイバー攻撃などもあります。また、国際紛争に伴うデモやテロ等、機動隊の任務も多様化、複雑化していると思います。

機動隊にとっては高度な対応、知識、能力が求められる時代になってきています。さらに、少子化の問題を考えると、いかにやり甲斐や誇りを持ってもらうことができるか、という環境づくりが必要です。

そして、我々が考えなければならぬのは、安全は「ただ」ではないということです。安全な社会を実現維持することは他人事ではありませんが、国民一人ひとりが担うべき役割・責務であり、同時に企業においても社会を構成する一員として治安の維持はCSR(企業の社会的責任)の重要な一部であるということを考えなければいけません。

当会そのものも、ボランティア活動から一歩も二歩も踏み出して国民の責務の一環としてこの事業に取り組んでいかなければならないと思っ

ています。その意味でこの会がモデルとなつてそうした意識や社会システムを進展させていくよう、貢献していくことを考えるべきではないかと思っています。63年前のケネディの言葉を思い出します。「一國が



小島警視總監から感謝状を授与される樋口前理事長(昨年11月)

--- 今月の賛助広告会員 ---
三和運輸機工(株)
五十鈴(株)
東鋼業(株)
合同製鐵(株)
新ケミカル商事(株)
山陽特殊製鋼(株)
(一社)機動隊員等を励ます会
東北支部

編集後記
居酒屋は賑わい、多くの外国人観光客が観光地にあふれています。新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、わずか1年ですが、日本社会はすっかり日常を取り戻しつつあります。しかし、コロナウイルスは変異を繰り返し、現在の「Omicron」は免疫を回避する力が強まっているとされています。うがい、手洗い等の基本的感染防止対策を心がけましょう。
(励ます会事務局)

あなたのために何をしてくれるのかを問うのではなく、あなたが国のために何を成すことができるのかを問うて欲しい。いま、まさに我々にとって大切なことではないでしょうか。